

ヒートポンプ式熱風発生装置 室内ユニット 据付工事説明書

PJN012D001



本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。

電気配線（室内）は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。

室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。

また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。

⚠警告

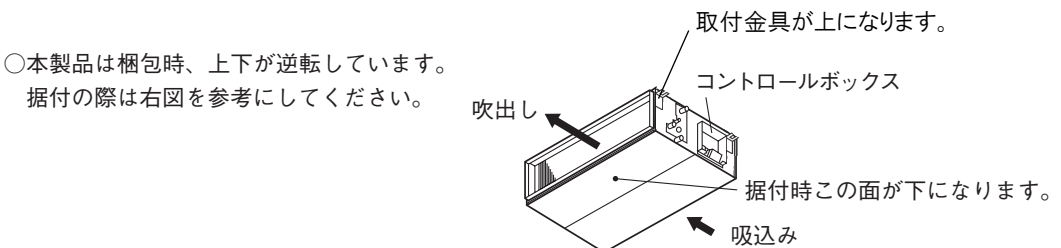
本製品は冷媒に R134a を使用しておりますが、設計圧力は 3.8MPa となっています。通常の R134a 用の工具・フレアナットでは耐圧性能不足となりますので、据付の際は R410A または R32 用の工具・銅配管(2 種)・フレアナット(2 種) を使用してください。誤って R134a 用のものを使用すると、機器の故障や冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因となります。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、**【⚠警告】**、**【△注意】** に区分していますが、誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【⚠警告】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【△注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。**【○】** 絶対に行わない **【●】** 必ず指示に従い行う
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お手入れの仕方（運転操作の仕方、温度調節の方法など）をお客様に説明してください。この据付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などを渡渡しいただくよう依頼してください。

⚠警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災、ユニット落下によるケガの原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
- 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界濃度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、ユニット落下、水漏れ、火災、感電などの原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据付工事を行う。
据付工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
- ユニットの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内に異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管・配管継手・フレアナット・フレア加工などは第 2 種 (R410A・R32 と同じもの) を使用してください。
R134a や R22 の部材を使用すると機器の故障や冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、サービスバルブを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
- オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取り付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF する。
点検・修理にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。



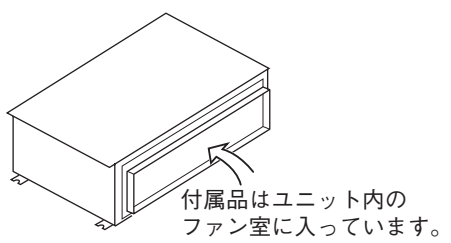
①据付けのまえに

- 据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。
 - 機種・電源仕様
 - 配管・配線・小物部品
 - 付属品

付属品収納場所
(梱包時)

付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用		
平座金 (M10)	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド
8 個	1 個	1 個	4 本
ユニット吊下げ用	ガス管断熱用	液管断熱用	パイプカバー固定用



②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が 28℃以下、相対湿度 80%以下の所。**〔本製品は加熱専用機ですが、除霜運転時や冷媒回収時に冷媒配管が結露することがあります。このような状況下で使用する可能性のある場合は、ユニット全体および冷媒配管にさらに 10 ～ 20 mm の断熱材を取付けてください。〕**
 - ・テレビ、ラジオより 1 m 以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - ・熱交換器の洗浄時に水が滴下する場合があるため、ユニット真下に濡れて困るものを置かない所。
 - ・ユニット周辺の機器が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。

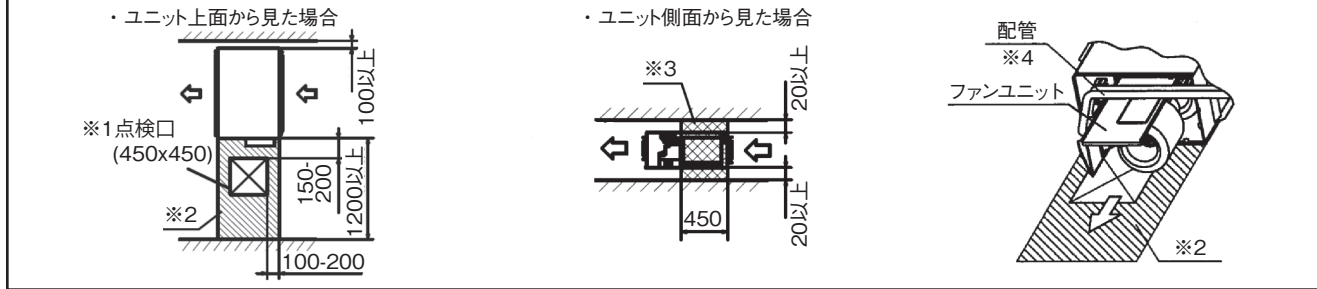
- ②据付けようとする場所がユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われるら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、ユニット落下によるケガの原因になります。

室内ユニット据付スペース

- 据付時、サービス時のために下記 2 ケースのどちらかを選んでください。

(ケース1) ユニット側面からメンテナンスする場合

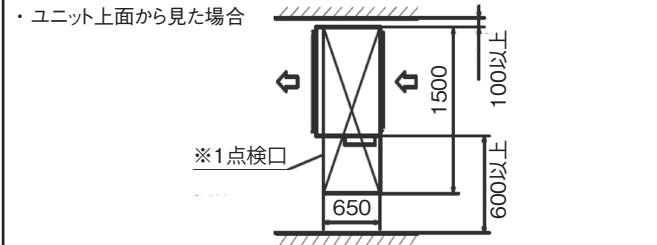
単位: mm



- ※ 1 天井内にユニットを据え付ける場合は必ず点検口を設けてください。
- ※ 2 ファンモータを側面へ引き出す構造となっております。障害になるものを設置しないでください。(印箇所)
- ※ 3 印箇所を横切らないように冷媒配管、電気配線を設定してください。
- ※ 4 ファンユニットの上(下)部で配管を通す場合はユニットの上(下)部に60mm以上の空間を確保してください。

(ケース2) ユニット下面からメンテナンスする場合

単位: mm



△注意

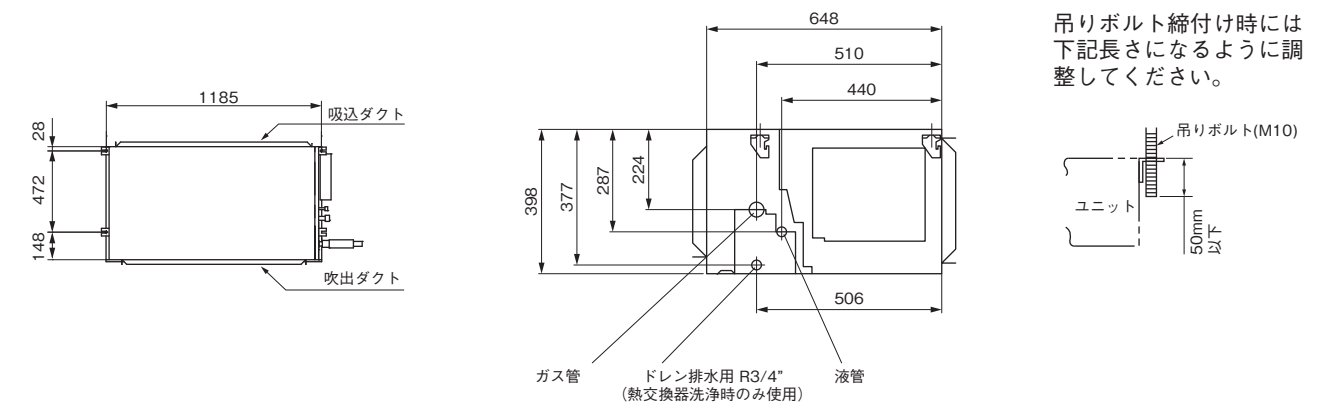
- アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 漏電遮断器は必ず取り付けける。
漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B 種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスがユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、揮発性引火物を取扱う所からの給気やユニット据付、仕様は行わない。
熱交換器の腐食やプラスチック部品の破損などの原因になることがあります。腐食や破損により冷媒や冷凍機油が漏れた場合、ユニット周囲や吹出空気を汚損する原因になります。また、漏れた冷媒が火気に触れると、有毒ガス発生の原因になったり発火の原因になることがあります。
- 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
- 洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしていません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
- 食品、動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。
- 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるユニットの誤作動や故障の原因になったり、ユニット側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。
- 直射日光の当たる所にリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- 次の場所への据付けは避ける。
 - ・可燃性ガスの漏れる恐れがある所
 - ・硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、
 - ・煙突の煙がかかる所
 - ・カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
 - ・機器に影響する物質の発生する所
 - ・車両・船舶等移動するものへの設置
 - ・油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
 - ・化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
 - ・高周波を発生する機械を使用する所
 - ・積雪の多い所
 - ・海浜地区等塩分の多い所
 - ・標高 1 0 0 0 m 以上の所性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。
- 次の場所への室内機の据付けは避ける。
 - ・吸込口、吹出口に障害物がある所
 - ・強度が不十分で振動が発生する所
 - ・高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
 - ・熱交換器洗浄時に排水処理ができない所性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。
- ユニットの下部には、濡れて困るものは置かない。
熱交換器洗浄時や除霜運転時に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。
- 長期使用で傷んだままの据付台を使用しない。
傷んだ状態で放置するとユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
- ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタがユニットにあたった場合、ユニットに損傷をあたえる原因になることがあります。ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
- 冷媒配管工事終了後は窒素ガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となることがあります。
- 冷媒配管の断熱を確実に行う。
除霜運転時や冷媒回収時に冷媒配管が結露することがあります。不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たれなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあるため、保温や火傷防止といった目的以外にも確実に保温工事を行ってください。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 製品の運搬は十分注意して行う。
20kg 以上の製品は原則として 2 人以上で行ってください。PP バンドなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。素手でフィンなどに触れるとケガをすることがありますので保護具をご使用ください。
- 梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にクギなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
- 吸込部にエアフィルタを必ず取り付けける。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。
- 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
- 運転中の冷媒配管を素手で触れない。
運転中の冷媒配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
- ユニットを水洗いしない。
感電の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず 5 分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるユニットの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。



③据付け前の準備

- 吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
 - システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
 - 吊り長さ（吊りボルト長さ）5 0 0 mm 以上又は天井ふところ高さ 7 0 0 mm 以上の場合に耐震プレースを設置する。
 - 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
 - 吊り長さ（吊りボルト長さ）1 0 0 0 mm 以上の場合に耐震プレースを設置する。
- 吊りボルト・ナット・パネ座金（M 1 0）を 4 組現地に手配してください。

吊りボルト位置、配管位置



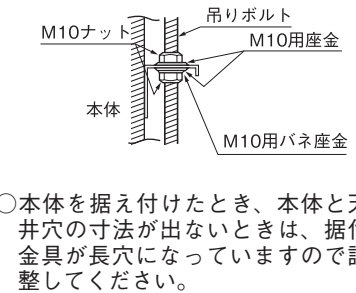
吊りボルト締付け時には下記長さになるように調整してください。

④室内ユニットの据付け

据 付

〈吊り込み〉

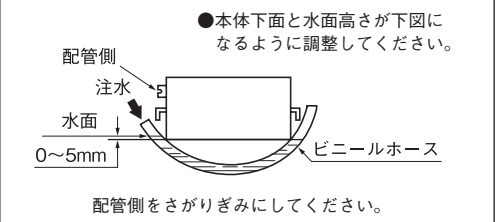
- ユニットを吊り込んでください。



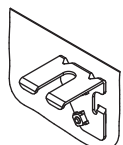
水平度の調整

お願い

- 水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。

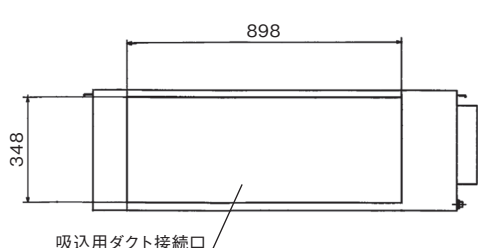


- 本体を据え付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。

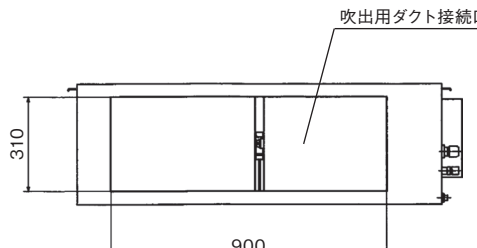


⑤ダクト工事

吸込口ダクトサイズ



吹出口ダクトサイズ



⑤ダクト工事（つづき）

●ユニットに接続する接続口やダクト、保温材は現地で手配してください。

本製品は吸込空気と吹出空気の温度差が大きいため、吸込と吹出の空気密度の差異が大きく体積流量の差異も大きくなります。
※1に示す例を参考に、ダクト内での圧力損失を考慮し設計をしてください。また、騒音や振動を抑えるためにダクト内の空気流速を10m/s以下となるように設計してください。

●ユニットにエアフィルタは付属していません。

ダクトを接続しない場合にも、必ずユニット吸込部にエアフィルタを組み込んでください。

●ユニット据付の際は防振対策を施してください。

異常音や振動の原因となりますので、ユニット本体の振動が周囲に伝わらないように防振ゴムやキャンバスダクト継手を使用して防振対策を施してください。

●ダクトの保温工事は必ず実施してください。

保温工事が不完全な場合はダクトからの放熱量が大きくなりダクト出口における温度降下が大きくなります。例として、※2に実際にダクトを設置した場合の放熱量の例を示します。使用する保温材は「グラスウール24K、厚さ50mm以上」を推奨しますが、※2に示すダクトからの放熱量やJIS A 9501を参考にして保温材を選定してください。

※2 ダクト工事例

例として右図のようにダクトを設置した場合のダクトからの放熱量を示します。

- ・ダクト：亜鉛鋼板（φ300mm、長さ：3000mm）
- ・保温材：グラスウール 24K（厚さ：50mm：熱伝導率：0.049W・m・K）
- ・周囲温度：20℃、熱風温度：90℃（表面の熱伝達率：7W/m²・K）

この場合、ダクトからの放熱量は約200Wとなります。
放熱量が大きい場合、ダクト出口における温度降下が大きくなるため注意してください。

●万が一ユニットが故障した場合やデフロスト時の風路を確保するために、ダクトには必ずY字分岐(※3)、もしくはバイパス経路を設けてください。

既存装置の給気量が不足し、性能や機能などに影響を及ぼす原因になることがあります。

※1 体積流量と密度の関係（例：吸込温度 20℃・吹出温度 90℃）

	吸 込	吹 出
温 度	20℃	90℃
体積流量	25m ³ /min	31m ³ /min (+24%)
空気密度	1.20kg/m ³	0.97kg/m ³ (-19%)

※2 放熱量の例

※3 Y字分岐の例

⑥冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

●冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。

既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。

本製品は冷媒に R134a を使用しておりますが、設計圧力は 3.8MPa となっています。通常の R134a 用の工具・フレアナットでは耐圧性能不足となりますので、据付の際は R410A または R32 用の工具・銅配管(2 種)・フレアナット(2 種)を使用してください。誤って R134a 用のものを使用すると、機器の故障や冷凍サイクルの破裂など重大な事故の原因となります。

フレア加工 頭出し寸法

配管径 d mm	配管の最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm	フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N・m
		リジッド（クラッチ式） 第二種		
6.35	0.8	0 ~ 0.5	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
9.52	0.8		12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
12.7	0.8		16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
15.88	1		19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
19.05	1.2		23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

⑥冷媒配管（つづき）

●冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管（C1220T、JIS H 3300）をご使用ください。

その際、フレア接続部は配管径 19.05mm × 肉厚 1.2mm の OL 材に切り替えて配管を行ってください。

また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等（コンタミ）の付着がないことを確認してください。

冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

●R134a 以外の冷媒は使用しないでください。

室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

●据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。

冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで 2 丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
- フレアナット飛びに注意してください。（内部に圧力がかかっている場合があります。）
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げは 4 D 以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで 3 ~ 4 回転ねじ込み、2 丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃以上のものを使用してください。
- 低温的环境下で使用する場合は、冷媒配管からの放熱ロスが大きくなるため断熱を強化してください。強化しない場合は吹出温度の低下や消費電力が増加する場合があります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

冷媒配管

お願い
冷媒配管工事は、上図のように直線部を 250mm 以上とって行ってください。

<断熱材厚さ10mmを使用する場合>

<断熱材を強化する場合>

注意
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

⑦電気配線取出し位置および電気配線接続

●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

●配線や電装箱は電気工事士の資格のある方や専門業者の方以外は触れないでください。

●配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。

●電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。

●D 種接地工事を必ず行ってください。

●電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

1. 電装箱の蓋（ねじ 2 本）を取外してください。

2. 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。

3. 各配線をクランプで固定してください。

4. 取外した部品を元通りに取付けてください。

信号線 リモコン線 電源線 *

* 配線を引張っても動かないようにバンドで固定してください。

⑧設計風量の変更とファン回転数の設定・補正

作業手順

本機はダクト接続タイプの室内機です。

リモコンから設定された室内ファン回転数に従い、一定の風量で送風、加熱運転を行います。

お客様のご使用になる風量（吸込側）を確認して、その風量を設計風量としてリモコンに設定し、設計風量で運転する際の機外静圧をもとに、以下の作業手順に従って室内ファン回転数を設定し使用してください。

1. 設計風量の設定

2. 設計風量と機外静圧からファン回転数を決定

3. リモコンを使用してファン回転数を設定

1. 設計風量の設定

●リモコンを使用し、設計風量を設定してください。

① F2 スイッチ（設計風量設定）を押してください。

② サービスパスワードを入力してください。

③ 設定したい設計風量に変更してください。

①

②

③

2. ファン回転数の決定

必要とする風量（1. で設定した設計風量）と機外静圧からファン回転数を決定します。

下記の手順でリモコンからファン回転数設定データ集を読み取り、ファン回転数を決定してください。

①メニュー画面より「ファン回転数設定データ集」を選択します。

②リモコンに表示されている室内機容量のファン回転数設定データが画面上に表示されます。
“次ページ”をタッチし、必要とする風量に最も近い風量のデータを表示してください。

③必要とする機外静圧に一番近いファン回転数に設定する必要があります。この値を参考に「3. ファン回転数設定」でファン回転数を設定してください。

①

②

③

必要とする風量に一番近い値のデータが表示されるまで“次ページ”をタッチしてください。

必要とする機外静圧に一番近いファン回転数を読み取ります。
風量 30m³/min、機外静圧 100Pa の場合、1050rpm となります。

⑧設計風量の変更とファン回転数の設定・補正

3. ファン回転数設定

リモコンを使用し、ファン回転数の設定してください。

●リモコンからの設定方法

①メニュー画面より“室内ファン回転数設定”を選択します。

②ファン回転数を設定する場合は“ファン回転数設定”、ファン補正を行う場合は“ファン補正”を選択してください。

③ファン回転数、ファン補正を入力してください。

詳細な設定方法については、リモコン付属の据付説明書を参照ください。

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

⑨ユニット据付工事完了後のチェック項目

●ユニット・ダクト据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと…	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	吹出温度が低くなる	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	吹出温度が高くなる・低くなる	
ファン回転数設定は完了していますか。	吹出温度が高くなる・低くなる	
室内ユニット・ダクト周囲に熱に弱いものを置いていませんか。	周囲に置いたものの破損・劣化	
ダクトに使用する部材は耐熱性の高いものを使用していますか。	ダクト破損・吹出空気の漏れ	